

## 平成 29 年度 海洋スポーツセンター事業報告書

海洋スポーツセンター長 中村 夏実

### I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 海洋スポーツの普及を目的に、平成 28 年度の満足度調査をふまえ、関連公開講座 4 件、学長杯オープンヨットレースを開催した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. 各事業において参加者数と満足度を調査し、地域ニーズを把握した。
4. セーリング競技等における競技力向上に関する合宿を開催した。
5. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第 23 号を「開所 30 周年記念号」として発刊準備中。

### II. 事業報告

#### 1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

##### （1）海洋スポーツ活動のための指導者育成（主担当 中村、海野）

開催日：2 月 17 日・18 日／参加学生数：7 名

継続事業として、海洋スポーツ活動の指導者およびリーダーの資質向上と資格取得を目指し、カヌー&スノーケリング講習、NEAL リーダーの資格取得講習会を実施した。本年度の参加者は、3 年生 7 名（ヨット 2、ウィンドサーフィン 3、ボート 1、カヌー 1／男子 4、女子 3）であり、全員が、NEAL リーダーの資格を認定された。

##### （2）小型船舶免許取得講習会の開催（主担当 坂口）

開催日：3 月 3 日・4 日・5 日／参加者数：4 名

在学生 2 名（4 年生）、卒業生 1 名、カヌー競技関係者 1 名が受講し、小型船舶 2 級の免許を取得した。

#### 2. 研究プロジェクト

##### （1）生涯スポーツとしての SUP（スタンドアップパドルボード）が体力に及ぼす影響

（主担当 中村、海野／平成 29 年 通年）

SUP を対象とした週 1 回の公開講座（6 月～9 月）の参加者（45 歳～71 歳）男女 10 名に対し、講座の前後でバランス能力の測定を実施した。成果は、第 5 回日本介護福祉・健康づくり学会大会（岐阜、2017 年 11 月）にて発表され、現在パフォーマンス研究に投稿準備中。さらに、住吉浜カップ 2017 スタンドアップパドルボード大会 SUP 大会（11/5）にて、参加選手 25 名のバランス能力および運動歴を調査し、現在データ整理中である。

##### （2）カヌースプリント競技における U23 選手の体力に関する研究（TASS 複数年継続課題）

（主担当 中村／平成 29 年 通年）

成長期を終えた U23（19 歳～23 歳）選手の競技力向上のための基礎資料とすることを最終目的とする。本年度は、形態および体力と競技成績との関係から、競技成績の評価に適切な項目を選択すること、またトレーニングと競技成績との関係について横断的に検討した。現在卒業研究作業の学生を中心にデータ整理中である。

##### （3）セーリング競技における指導者用テキストの作成（主担当 榮樂／平成 29 年 通年）

平成 29 年度に作成したセーリング競技における（レーザー級）指導者用テキストのコンテンツの充実を図った。具体的には動画等を織り交ぜた資料を加えた。

### 3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

#### (1) 学長杯オープンヨットレース (主担当 榮樂、坂口、中村)

開催日：8月27日(日)／参加者数：50名)

学長杯オープンヨットレース前に SUP ファンレースを実施した。その後、天候の急変により、雷雨が激しくなり、回復が見込めなかったため、ヨットレースは実施しなかった。

#### (2) 鹿屋カップヨットレース大会協力 (主担当 榮樂、坂口、中村)

開催日：8月26日(土)／参加者数：40名)

鹿屋海洋スポーツクラブが主催するヨットレースへの運営協力、およびレース終了後の講習会(実技指導等)を実施した。

#### (3) 公開講座 (中村、榮樂、坂口)

##### ①公開講座A：楽しいスキndaイビング (初級者編) (主担当 中村)

開催日：5/10、5/17、5/24、5/31、6/7、6/14 (プール7回：水曜日19時～21時)  
7/2 (海1回：日曜日9時～16時)

参加者数：21名

屋内実験プールで7回のスキndaイビング講座を実施した後、1日の海でのダイビング活動を実施した。予定していた最終日(6/25)は荒天だったため、7月2日に海でのスキndaイビングを実施した。

##### ②公開講座B：楽しいマリンスポーツ (各種マリンスポーツ体験編) (主担当 榮樂)

開催日：4/23、5/14、5/21、5/28 (9:00-12:00)、6/4 (9:00-16:00)

参加者数：20名

半日講座を4回および1日講座を1回で、計5回の講座を企画した。ヨットやカヌーを中心とした活動とし、経験の浅い者が安全で楽しく継続した活動を行うために必要な知識と操船技術を学ぶことを目的とした。第1回目(4/16予定)は、天候不良(大雨)のため延期とした。そのため、初回は参加者自身の経験を加味して、可能な参加者のみ活動を実施した。この回は、講座日程に加え、1日分を追加して実施した。

##### ③公開講座C：「SUP健康教室」(主担当 中村)

開催日：6/28 (オリエンテーション・測定)、7/5, 12 屋内実験プール使用 (19:00～21:00)、海上講座7/19, 8/5, 9, 16, 23, 9/9, 13, 20 (17:30～19:30)

参加者数：10名

毎週水曜日夜方の正味1時間程度の健康運動教室とし、対象者は、SUP経験のない中高年齢者(45歳以上)として、前後でバランス測定を実施した。講座は中止・延期なく、全回実施できた。データ収集には、藤田英二助教授、イスラム モハモド モニルル准教授、竹島伸夫教授(朝日大学)に協力いただいた。

##### ④公開講座D：少年少女海洋スポーツキャンプ (主担当 中村)

開催日：7/25, 26, 27 (2泊3日)

参加者数：24名

小学3年生から小学6年生までの児童と、海洋スポーツを専門実技とする本学学生の交流を中心としたキャンププログラムを実施した。宿泊は大隅青少年自然の家を使用した。

#### (4) 鹿児島県教員10年経験者研修 (パワーアップ研修) (主担当 中村)

開催日：8月2日(水)

中学校・高等学校等の教員を対象とした、水辺活動においてリーダーの役目を果たすための各種アクティビティの体験、安全管理方法などに関する講習会を開催した。

なお、教員免許更新講習会と隔年開催としている。

**(5) マリンフェスタ in かのやへの協力 (主担当 中村、坂口(実行委員会)、榮樂)**

開催日：7月16日(日)

参加者数：471名

マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担当した。主な種目は、ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スタンドアップパドルボード、バナナボートの5種目であり、ヨット部、ウィンドサーフィン部、カヌー部、ボート部学生の協力を得た。エキシビジョンレースとして、オープニングセレモニーでSUPのエキシビジョンレースを実施した。

**(6) 大隅青少年自然の家との事業協力 (主担当 中村、榮樂、坂口/平成29年 通年)**

海浜活動安全対策協議会、「鹿児島・宮崎体験の風を起こそう」実行委員会、施設業務運営専門部会の委員(中村)として協力した。また、「海からのメッセージ」と称した、錦江湾沿岸110mをカヌーと徒歩で漕破・踏破するプログラムに際し安全管理者として動力船で会場行程を帯同した(坂口)。なお、マリンフェスタ(マリン部門)において自然の家との協力体制をとってプログラムを実施した(坂口、榮樂、中村)。

**4. その他**

**(1) 協力者会議の開催 (主担当 中村、榮樂、海野)**

開催日：12月4日(月)

テーマを「大隅半島の振興を目指した海洋スポーツ活動の実践に向けて」とし、垂水市の企画政策課係長の福留氏に「道の駅マリパーク構想の概要」についてお話いただいた。また、すでに海洋スポーツで生計を立てている先駆者のお立場で、本学客員教授の海野氏より「海洋スポーツ活動を仕事にする～NPO 法人の場合～」と題した講話をいただいた。

**(2) 外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ**

学外スポーツ実習の場として活用できることを条件とし、業務に支障のない範囲で、以下の教育団体の海洋スポーツ実習を受け入れた。

**①鹿児島南高等学校体育課2年次野外スポーツ実習(海洋スポーツ)(主担当 中村)**

開催日：9月21日(水)・22日(木)

SUP、カヌー、ウィンドサーフィンの体験をした。2日目の午前中は、豪雨のため活動を中止し、白水校舎の施設見学を行った。

**②鹿屋市立高須小学校ヨット学習(主担当 中村)**

開催日：5月26日(事前学習)、6月2日(活動1回目)、6月9日(活動2日目)

高須小学校はヨット学習(総合学習)の時間、体育大学は、実践的な指導実習の時間において合同で行った。体育大学学生は4月当初から授業内で準備をすすめ、指導案を作成して、指導に臨んだ。1日目に、事前学習(安全のお話、ライフジャケットの装着、艀装など)を実施した。2日目は、1～3年生半、4～6年生半にわかれて、カヌーとヨットを体験した。また3日目は、体験種目を入れ替えて実施した。全日程天候に恵まれ、楽しんで実施した。

**(3) 施設一時使用許可**

鹿屋体育大学海洋スポーツセンター施設一時使用細則に基づく、海洋スポーツセンター一施設等の一時使用について、23団体、延べ1,500人に使用許可するとともに、安全な海浜活動のため、10団体に対して、海洋スポーツセンター教員が活動の指導を実施するとともに、21団体に対して海洋スポーツセンタースタッフが救助艇操船等の指導補助を行った。

### Ⅲ. 決算報告

#### 1. 教育プロジェクト関係

区分	金額	附属施設経費	CASEプロジェクト	備考(使用内容)
人件費	80 千円	0 円	80 千円	外部有識者招聘 (自然体験活動に関する勉強会)
物件費	16 千円	0 円	16 千円	消耗品費、通信運搬費
その他	99 千円	0 円	99 千円	外部有識者・スタッフ研修旅費
計	195 千円	0 円	195 千円	

#### 2. 研究プロジェクト関係

区分	金額	附属施設経費	CASEプロジェクト	備考(使用内容)
人件費	140 千円	0 円	140 千円	客員教授招聘に関する経費
物件費	0 円	0 円	0 円	
その他	398 千円	0 円	398 千円	客員教授旅費等
計	538 千円	0 円	538 千円	

#### 3. 社会連携・社会貢献プロジェクト関係

区分	金額	附属施設経費	CASEプロジェクト	備考(使用内容)
人件費	31 千円	0 円	31 千円	学長杯 学生等アルバイト
物件費	65 千円	65 千円	0 円	トロフィー、賞状印刷用プリンタ
その他	0 円	0 円	0 円	客員教授旅費等
計	96 千円	65 千円	31 千円	

#### 4. その他

区分	金額	附属施設経費	CASEプロジェクト	備考(使用内容)
人件費	32 千円	0 円	32 千円	協力者会議外部協力者謝金
物件費	3,404 千円	3,246 千円	158 千円	通常運営経費 (協力者会議・レスキュー艇艇修繕含む)
その他	90 千円	86 千円	4 千円	協力者会議等旅費
計	3,526 千円	3,332 千円	194 千円	